

令和6（2024）年度

地域学校協働活動推進員養成研修④ 実施報告

実施日：令和6（2024）年9月26日（木）

本研修は、地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施します。

第4回は、受講者が地域学校協働活動を創出していくために求められる「地域づくり」の考え方の理解を深めることをねらいとして研修を行いました。

講話・演習

「子どもの成長のために地域にできることとは」

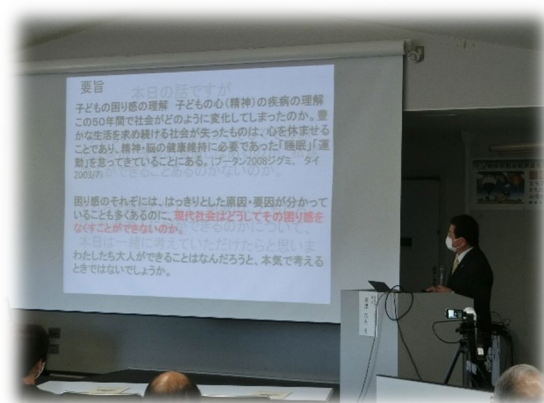
西真岡子どもクリニック 顧問 柳澤 邦夫 氏

柳澤氏は、小学校教諭、厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境課児童健全育成専門官、河内教育事務所ふれあい学習課長、小学校校長を務めた経歴があり、長年にわたって子どもたちの育成に関わっていらっしゃいます。現在は、西真岡こどもクリニック顧問として“困り感”を抱えている子どもに寄り添った活動に取り組まれています。

最初に、子どもの困り感について説明がありました。特に、子どもを日々悩ませている困り感の一つだけではなく、複数に迫られていることが多いことについて触れ、早期に解決・改善しないと、その後の人生に大きな影響を与えると強調されました。



その後、喫緊に解決しなければならない困り感について丁寧な説明がありました。そして、子どもの成長のために地域の大人ができることとして、「大人と子どもの関係性を増やしていくこと」（積極的な挨拶や声かけから子どもの変化に気付くきっかけを）「子どもの生活の中に『ゆとり』『睡眠』『運動』の時間が確保されるような啓発をしていくこと」を挙げ、大人も子どもも笑顔でいられる地域社会を目指してほしいとエールが送られました。



講話・演習

「地域と学校の協働による人づくり・地域づくり」

栃木市地域政策課 社会教育指導員 鈴木 廣志 氏

鈴木氏は、小中学校の教員、教育委員会の社会教育主事として勤務され、小学校校長を最後に御退職されました。現在は、文部科学省より委嘱されておりますCSマイスター、栃木市地域政策課の社会教育指導員として活躍されています。

学校と地域の連携・協働の在り方について、幅広く研究、実践に取り組まれており、学校の立場、地域の立場など、様々な視点から自らの御経験も交えお話しいただきました。





前半は、学校や子どもの現状についてお話いただきました。特に、新型コロナウイルス感染拡大の状況における学校や子ども、家庭の変化について取り上げました。また、今まで築き上げてきた学校・家庭・地域の中の様々なつながりが分断されていることにふれ、再びつながる必要性を強調されました。また、様々な協働事例が提示され、それらから地域学校協働活動推進員、地域コーディネーターとしての役割を再確認しました。

後半は、地域の中にあるヒト・コト・モノとどのようなつながりがあり、どう関わっていけばよいか考えるワークショップを行いました。コーディネート力が新たな学校の課題、地域の課題の解決のツールになりうることを、自らの体験を基に話されました。

最後に、「地域のよさを生かし、未来につなぐ」という言葉があり、コーディネートに向けた心構えについて話されました。受講者それぞれが、地域の中でのつながりづくりにどうアプローチしていくか考える契機となりました。

【受講者の感想から】

- 子どもの置かれている状況を理解して、自分の務めを果たしたい。
- 地域の子どもの関わりを今一度考えて、言動などに配慮したいと感じた。
- ボランティアさんと子どもたちとの関わりについて、配慮すべき点を徹底することの難しさを感じた。
- 学校支援にとどまらず、地域のヒト・モノで地域づくりが進むことが分かった。
- 学校とのスムーズな連携や関わる方々の「共感」など、活動を進めていく上で大切にすべきことについて気付きがあった。
- 夢のデザインをたくさん考え、みんなで共有してみたいと思った。
- 地域をつなぐプラットフォームづくりを丁寧にしていく必要性を感じた。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp